令和８年度　　第２学年　　授業改善推進プラン　　小平市立小平第二小学校

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語 森本	・音読や音読発表には意欲的に取り組む児童が多い。しかし、流暢に読む力や、内容を読み取る力、読書への興味には個人差がある。 ・構成や順序を意識しながら文章を書く力に個人差がある。 ・漢字やカタカナ、促音、拗音、助詞、句読点などの習熟に個人差が見られる。 ・課題に対する自分の考えをもったり、自信をもって発表したりすることのできる児童が一部に限られる。	・流暢性を向上させたり、文字を読むことに慣れさせたりするために、音読を授業や宿題で毎日取り組ませるようにする。また、読書活動の時間を毎週設定することで、お話を楽しむ経験を積み、読むことへ関心をもたせる。 ・書く相手を明確にすることで組み立てや構成に意識が向くようにするとともに、相手の立場に立って読み返しができるようにする。また、つなぎ言葉を使わせることで文と文のつながりを意識させるようにする。 ・漢字練習には日常的に取り組ませ、定期的に小テストを行いながら定着を図る。文章を書く際は、読み直しをして誤りを自分で見付けられる力を育成するとともに、スパイラルに繰り返し練習することで正しい表記を身に付けられるようにする。 ・ペアやグループなど、考えを交流する場を一日に１度は設ける。個人の考えの深化や新たな気付きを促す中で自信をもって発表できるようにしていく。
算数	・「やってみたい」「できるようになりたい」と、意欲的に問題に取り組む児童が多い。繰り上がりや繰り下がりのある筆算では、学習の習熟に個人差が見られ、苦手意識をもっている児童もいる。 ・「量と測定」領域（長さ・かさ・時刻と時間）において量感が十分に身に付いておらず、単位が正確に理解できていない。 ・文章問題で、正しく立式できない児童がいる。	・ドリル学習や練習問題に日常的、継続的に取り組ませ、計算技能を確実に定着させる。個別指導で「分かった」「できた」を感じさせる機会をつくり、苦手意識を軽減していく。 ・水のかさを実際に量ったり、身近なものの長さを計ったりする体験的な活動を取り入れ、量感を身に付けさせる。 ・文章の中の大切な言葉や数を捉えられるようにするとともに、数学的な活動を多く取り入れ、図、言葉、式をつなげながら、演算決定ができるように指導を行う。

生活	・身近なことや植物の成長などに興味をもち、意欲的に活動できる児童が多い。 ・身近なことや植物の成長などの様々なことへの気付きや、表現力に個人差が見られる。	・どんなことに気付けばよいかが児童に分かるよう、活動のめあてや気付きの視点を取り上げ、意識させる。 ・説明をより分かりやすくする工夫を考えながら取り組ませたり、友達と交流しながら考えを広げたりする場を多く設定し、表現力を高めていけるようにする。
音楽	・リズム打ちや歌唱、演奏などに意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカの運指やタンギングなどの技能については、個人差がある。	・曲の感じや歌詞の意味を考えさせたり、様々な曲やリズムに触れさせたりすることで、さらに楽器や曲への興味や関心を高めていく。 ・演奏するときのきまりを含め、鍵盤ハーモニカの技能をスモールステップで丁寧に指導し、運指の定着を図る。
図工	・創作活動に意欲的に取り組むことができているが、さらにイメージを膨らませて作品の質を高めようとする児童は少ない。 ・学習の見通しをもてず、途中で集中力を切らせてしまう児童が見られる。 ・絵の具、はさみ、のりなどの用具の使い方や表現する技能に個人差がある。	・導入では模範作品を多く提示して児童の意欲を高める。教員や友達とのコミュニケーションを大切にすることで、イメージを膨らませられるようにする。 ・本時の流れを毎時間掲示し、見通しをもって活動できるようにする。教師の説明を聞く時間、質問してよい時間、交流や活動をする時間をはっきり区別し、それを視覚的に分かるようにする。 ・用具の扱いに慣れることや表現の仕方を理解することをねらいにした作品づくりを計画的に位置付け、定着を図る。
体育	・運動経験や休み時間の過ごし方の違いから、走る・跳ぶ・投げるなどの基本的な運動技能に個人差が見られる。そのため、運動に対する自信や意欲にも差が見られる。 ・自分の動きを振り返り、「どうしたらもっと上手にできるか」「どこを工夫したらよいか」を考えることが難しい児童がいる。また、友達のよい動きを見付けたり、教え合ったりする経験が十分ではない。	・児童の技能差に応じて、場の設定や用具の工夫を行い、全員が安心して運動に取り組める環境を整える。 ・毎時間、学習のめあてを明確にするとともに、活動後には「できたこと」「工夫したこと」を振り返る時間を設定し、自分の成長に気付けるようにする。 ・ペアやグループで友達の動きを見たり、よいところを伝えたりする活動を取り入れ、互いに励まし合いながら学習できるよ

	・教師が示した動きをまねする活動だけでなく、児童自身がめあてをもち、友達と関わりながら運動の楽しさや上達を実感できる学習活動の充実が必要である。	うにする。 ・教師が動きのポイントを具体的に示し、児童が「やってみたい」「できるようになりたい」と思える授業展開を工夫する。
道徳	・道徳的価値について考える際に、自分の経験や生活と結び付けながら自分の考えや思いをもつことが難しい児童がいる。 ・友達の考えを聞き、自分の考えと比べたり、新たな気付きにつなげたりする経験が十分ではない。そのため、同じ教材を読んでも、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しい児童がいる。 ・道徳の時間で考えたことを、日常生活の中でどのように生かしていくかを具体的に考えることに課題がある。学習した道徳的価値を自分自身の生活と結び付け、実践につなげる指導の充実が必要である。	・導入では、児童が自身の経験や日常生活を振り返る時間を設定し、教材の内容を自分自身の問題として捉えられるようにする。 ・発問を工夫し、「自分だったらどうするか」「なぜそう思ったのか」など、自分の考えを表現できる場面を意図的に設定する。また、ペアや小グループで考えを伝え合う活動を取り入れ、安心して自分の思いを表現できる環境づくりを行う。 ・友達の多様な考えに触れることで、自分とは異なる見方や考え方に気付き、道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにする。 ・終末では、学習を通して考えたことや、これからの生活で大切にしたいことを振り返る時間を設定し、道徳的価値を自分自身の生活につなげられるようにする。